

「質の高い学び」と「持続可能な学校」

の同時実現に向けて

青木小学校

【質の高い学び】

- ICT活用のために組織改編
 - ・「情報処理」の事務分掌から月1回四部会へ
 - ・ロイロノートやgoogle meetの活用を共有
- 月1回 学年研カリ・マネタイム
 - ・総合的な学習と他教科のつながりを学年研で話題
 - ・各担任が取組状況（カリの見直し、授業の振り返りの時間設定）の話合い
- 校内研修・メンター研の充実
 - ・YPの活用の推進
 - ・メンター研で算数や学級づくりの授業研究
- 特別支援校内委員会を月1回開催
 - ・教育的ニーズに沿った指導・支援ができるように
 - ・子どものアウトプット力の強化

【持続可能な学校】

- 日課の変更・改善
 - ・火曜日本曜日は清掃なし→昼休み・昼活動へ
 - ・昼活動→たてわり活動・集会活動・読書タイム
 - ・週1回（水曜日）の体力アップの確保
 - ・1時間45分授業、午前中の5分休憩、金曜日は全学年5時間授業は継続
 - ・4月は、委員会活動以外は5時間授業
 - ・周年行事のPJは、従来の2つのフェスティバルのPJ時間から捻出（児童会活動の精選）
- 夏休みの研修方法の工夫
 - ・特別支援の悉皆研修は時間の制約を最小限に

【成果や課題】

- 成果
 - ・「複数の業務の優先順位をつけている」が市平均より高く、休日出勤の日数が市平均より低い。（働き方分析アンケート結果）
 - ・4月は、委員会活動以外は5時間授業を歓迎する声が多かった。（教職員の声）
 - ・昼休みができたり、読書の時間（読み聞かせ）も増えたりして嬉しい。（児童の声）
- 課題
 - ・児童や保護者の関係や突発的な対応に悩む職員が多い。（働き方分析アンケート結果）
 - ・清掃については、時間が減ったことで廊下などにほこりがたまる。（教職員の声）
 - ・教材研究の時間が十分に確保できていないと感じている。（働き方分析アンケート結果）

「質の高い学び」と「持続可能な学校」 の同時実現に向けて

今宿小学校

【質の高い学び】

- ①グループワークと思考ツールを活用して授業改善
- ②主体的・対話的に学ぶ姿を育成するために授業研
- ③学年単位で育成を目指す資質能力育成
- ④教科領域係による情報共有、体験的学習で資質能力育成
- ⑤少人数指導、教科担当制などの指導方法工夫改善
- ⑥読書活動や家庭学習の実施

(学力向上アクションプランより)

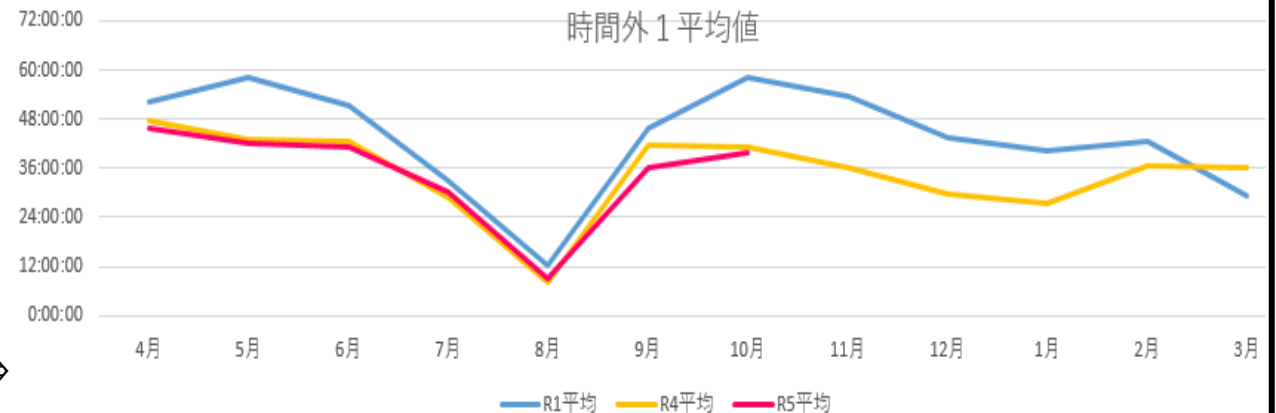
【持続可能な学校】

- ①キャリアステージに応じた人材育成
- ②人権研修、初任者研修の実施、メンター研の充実化
- ③マネジメントを意識した予算委員会
- ④学校運営の効果的効率的運営により充実とスリム化を推進
- ⑤**日課表の工夫**
(中期学校経営方針「人材育成・組織運営」より)
- ⑥「おはやしクラブ」「放課後自習室」を地域と連携
(中期学校経営方針「地域連携学校運営協議会」より)

【成果や課題】

- ①ハッピーフライデー（会議のない金曜日）の新設
- ②第4～6学年は6校時授業の日を週2回に
- ③第3～6学年は水木金曜日5時間授業
- ④1、2学年は木曜日4時間授業にし、学年会の時間確保
- ⑤1学年は金曜日にも4時間授業
- ⑥地域と連携しておはやしクラブと放課後自習室の継続

令和元年度、4年度、5年度の時間外勤務の平均比較グラフ⇒



「質の高い学び」と「持続可能な学校」 の同時実現に向けて

大岡小学校



【持続可能な学校】

- ① 日課表を変更し、教職員の裁量ある時間を確保
 - ・児童が14時55分までに完全下校するように改定。
 - ・会議も15時から開始することができるので、勤務時間内に終わることができる。（割り振りは15:45～16:30）
 - ・朝読書 → 朝学習 に変更し時数を確保。（モジュールの活用）
- ② 会議や研究等、放課後の予定を曜日で固定し、余裕のある学校運営を行う
 - ・教職員の裁量ある時間を毎週、確実に確保することができる。
 - ・教材研究や児童指導に関する業務の時間を確保することで、教職員自らが効率的な働き方を心がける。
- ③ 「働き方改革」に対する教職員の意識改革
 - ・研修や話し合いを重ね、効率の良い仕事の進め方や学習評価の具体的な進め方等を共有し、勤務時間内でより高いパフォーマンスを発揮できるよう意識を高める。

【質の高い学び】

- ① 教職員の裁量ある時間の活用
 - ・児童指導に関する情報共有や、きめ細かく対応するための時間を確保する。
 - ・教職員自らが積極的に学級のカリキュラムマネジメントを行う意識を高める。
- ② より質の高い授業づくりを目指す研究の在り方
 - ・単元づくり、活動案、本時案、板書計画、問計画等、ブロックで徹底的に練ることで、授業者をサポートし、育成する。
 - ・教材研究や授業の準備等の充実により、質の高い授業づくりにつながる。

【成果や課題】

- 【成果】
- ・児童指導に関する情報共有や対応の時間を確保することができ、チームで協働して解決する体制を整えることができた。
 - ・教職員自らが積極的に学級のカリキュラムマネジメントを行うことで、より質の高い授業を展開し、子どもたちの資質・能力の向上につながった。
- 【課題】
- ・朝学習の活用方法については、今年度の実践を振り返り、よりよい活用方法を検討していく必要がある。確実に時数がカウントされていくため、教科や単元の精選が必要である。
 - ・昨年度と比べて、「働き方改革」に対する教職員の意識は高まっていて、勤務時間内に自分の裁量のある時間が増えたと感じている人が半数くらいいて、時間外勤務80時間以上の方が月平均6.5人から4.5人に減った。しかし、帰宅時間が早くなっていたり、余裕をもって業務に取り組んでいたりするという風を感じている人は少なかった。

「質の高い学び」と「持続可能な学校」

の同時実現に向けて

幸ヶ谷小学校

【質の高い学び】

- 高学年分担制、高学年チームマネージャー
 - ・授業精度の向上、空き時間の確保
- ICTの活用
 - ・ロイロノートの活用（共有、アンケート等）
- 重点研等の研修の工夫（「同僚性」向上を目指す）
 - ・重点研の授業研は年に3回、学年1本。
年次研や一斉研など、他の授業研も含めて年間計画として授業研究の機会をつくる。
 - ・夏季休業中の研修をニーズに合わせて企画
（ホワイトボードミーティング、LGBYQ等）
- 地域学校協働本部（共育倶楽部）との連携
 - ・校外学習、水泳などの見守り、総合などでの意見交換

【持続可能な学校】

- 日課表の工夫（余剰時数の削減、朝学習の時数確保）
 - ・1年生：週2回4時間授業、2年生：週1回4時間授業
3年生：週1回6時間授業 全学年：週2回5時間授業
 - ・余剰時数……1年:14 2年:9 3年:24
4年:16 5年:15 6年:10
 - ・朝学習で週3回、各1/3hで計上。基礎・基本の定着。
 - ・6時間目は60分授業。
 - ・繁忙期の4月、9月、3月は全学年5時間授業。
- 休憩時間の確保
 - ・ミライムの「今日の予定」に明記する。
- 会議の精選
 - ・職員会議を廃止し、運営会議とメンター研を並行開催。
- 校務分掌に「ESD・業務改善」を設け、日常的に意識化。

【成果や課題】

【成果】○アンケートより……「勤務時間内の自分の裁量のある時間が増えた」「帰宅時刻は以前より早まった」について、肯定的な回答が76.2%と高かった。アンケート自体の経年変化はまだ見ることはできないが、概ね実感できている。
○多くの教職員が、業務改善という視点をもつようになり、無意識に「前年度や既存の取組を踏襲する」という思考が減り、本質を考える教職員が増えた。

【課題】●「質の高い学び」の具体像が共有できていない。カリ・マネを通して授業づくりの土台を共有化していきたい。
●「時間の確保」は少しずつできてきたので、「質」や「内容」に目を向けてさらに業務内容の見直しを図っていきたい。
●登校時間との勤務時間のずれ、校務分掌の偏り、メンタルケアなど、課題はまだあるので、継続して改善を図る。

「質の高い学び」と「持続可能な学校」 の同時実現に向けて

二谷小学校

【質の高い学び】

- 日課表を工夫することで放課後の時間を確保
 - ・教材研究の時間を保障することによる授業の質の向上
 - ・重点研究をいかした教員の学級・授業づくり
 - ・職員研修の充実（特別支援や教師力向上への研修）



子どもたちへ質の高い学びの提供



- 1年生から6年生まで学年に応じた一部教科担任制を導入
 - ・教員の教える教科を絞ることで教材研究の充実を図る。
 - ・たくさんの教員が関わることにより
子どもたちのよさや困り感を的確に把握する。
- ・専門性を活かすことができる。

等

【持続可能な学校】

- 日課表の工夫
 - ・授業時数の余剰の削減
 - ・スキルタイムの活用
- 会議の削減
 - ・書面による職員会議＋職員打ち合わせ（月一回）
 - ・毎月 事務部会 経営部会 いじめ防止対策委員会
- 職員作業の一部民間委託
- PTAによるボランティア



教員の学級や校務に向き合う時間の確保

- 定時退庁日の設定
- チーム高学年ブロック経営

等

【成果や課題】

アンケート結果から・・・

「学級事務や校務に向かう時間が以前より増えたと回答した教職員が多くいた。

→教材研究の時間や児童理解の時間が増えた。

さらに質の高い学び・持続可能な学校をより確かにしていくために・・・

- ・余剰時数の見直し（余剰時数をできるだけ少なくしていくとともにさらなる日課の工夫）
- ・ペーパーレス化
- ・行事やイベントのねらいに沿った運営・計画
- ・さらなる外部人材の活用

「質の高い学び」と「持続可能な学校」 の同時実現に向けて

六浦小学校

【質の高い学び】

- ・年間授業時数を限りなく標準時数に近づくように削減する。
- ・放課後に時間的な余裕を生む。
- ・休み時間、授業間の移動時間（5分間）を確実にとる
- ・児童の休み時間をこれまで通り確保し、一日の中で児童がホッと一息つける時間を維持する。
- ・1コマ45分という以前と同じ授業時間を継続する
- ・毎週水曜日を早帰りの日として4時間授業（13:30下校）とする。
- ・会議の精選と休憩休息時間前への開始時刻の前倒し

【質の高い学び】

- ・放課後の教材研究・授業準備の時間が確保される。
- ・勤務時間内に支援が必要な児童への対応を検討する時間が取れる。
- ・下校が早い曜日があることで、児童の生活にメリハリを生まれる。
- ・時数が減った以外は今までと変わらないことが多いので、児童も職員も新たな対応が少ない。

【成果や課題】

- ・放課後に時間的な余裕が生まれた。
- ・会議が以前より早く終わるので、定時近くに退勤しやすくなった。
 - ・時数削減だけでは変わらないことも多い。
- ・業務量を減らすために、さらに何が精選できるか検討が必要。

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

あざみ野第二小学校



【質の高い学び】

■【午前5時間授業】

- 40分×5コマ+20分(モジュール)+40分
*AM…集中力が高い 40分×5コマ *PM…20分と40分 or 20分+40分
- 授業コマ数増加
*40分授業になった分、授業のコマ数を増やし学習内容を確保
- ICT機器の活用
*ロイロノートスクール、Google Classroom、Google Meet etc
- ロング風休みの設定
*週に1回、1,3,5年、2,4,6年で隔週で実施 豊かな心の育成
- 教材研究タイムの設定
*月に数回、学年研の時間以外に教材研究をする時間の確保

■【チーム学年経営】

- 全学年にチームマネージャーを配置
*3クラスの担任+TMとして教員を加え、4人で見守り、指導・支援。
- 教科分担制
*3人の担任=社会(音楽)・理科・体育 TM…図工・家庭科・(音楽、社会)
- 算数コース別学習
*担任+TMの4人で、3クラスを4つのコースに分けて指導

今までの取組

- 留守番電話設定(17:00)・ミライムの導入
- あゆみの見直し・定時退勤日の設定
- 学校・地域支援コーディネーターにボランティアの依頼を委託する。

【持続可能な学校】

これからの取組

- 余剰時数の見直しによる日課の再調整
- 中学校ブロックへ午前5時間授業の取組について発信 ~あざ2から青葉区へ~

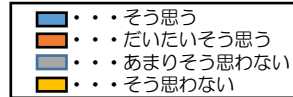
教師のHappyが児童のSmileを生む

- 計画年休……年間で一人2回実施
- 19時までに退勤…16:45チャイム、18:00・18:45に音楽を流す
- 定時退勤日……原則、毎月第3金曜日：全校完全定時退勤日
完全定時退勤日は全校5時間授業(13:55完全下校)
- サークル活動…勤務時間に活動時間を確保し、趣味を同行するもので活動し、コミュニケーションを深めたり、ストレス解消に役立てたりする。

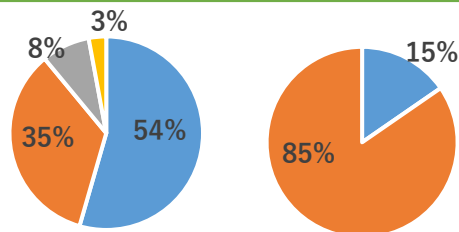
残業時間80h超の職員数

R4年度4-9月 7人 ⇒ R5年度4-9月 2人

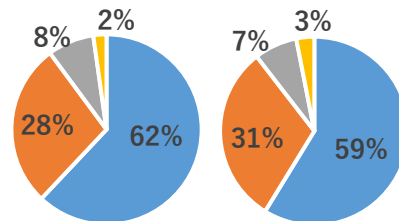
【アンケート結果】*左…児童 右…職員



1 午前5時間授業は勉強に集中できる

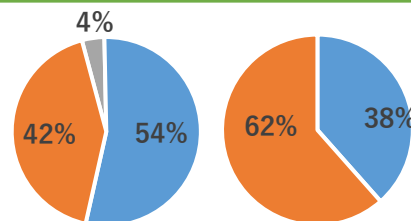


2 放課後の時間を有効に使える。

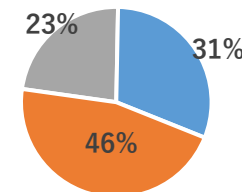


【成果や課題】

3 いろいろな先生に教えてもらうことで、授業がより詳しくわかる。



4 午前5時間授業、チーム学年経営、教科分担制の実施で、退勤時間が早くなった。(職員の回答)



- 午前5時間授業と教科分担制は児童と職員どちらにとっても、質の高い学びや持続可能な学校に有効。
- チーム学年経営により、学年経営の安定や働き方改革に繋がっている。
- 取組の継続により、午前5時間やチーム学年経営がブラッシュアップされており、近隣校も実践に興味を示している。

「質の高い学び」と「持続可能な学校」 の同時実現に向けて

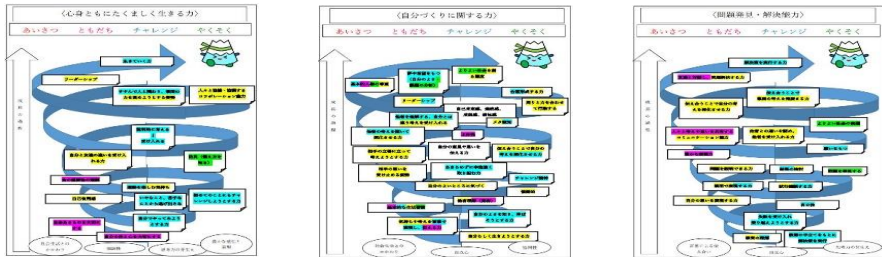
伊勢山小学校

【質の高い学び】

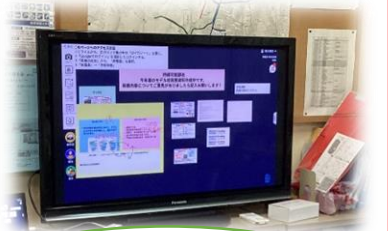


【持続可能な学校】

- 学校教育目標の実現に向けた子どもたちの実態把握
- 身に付けさせたい資質・能力の明確化
- 情報共有の時間の確保（年2回）



- 午前40分5時間制の継続的な取組
- 週案の工夫
- 特別教室予約のオンライン化
- 職員室にモニターを設置
- 各行事の反省を全員でWord共有
- 学校経営計画の反省、改善を年二回に



ロイヤルやGoogleのデータがリアルタイムで映し出される職員室モニター

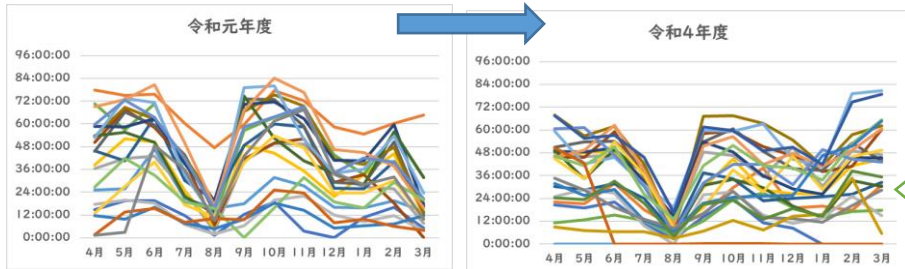
ICT活用の必要性を全職員が実感

16 柔軟な日課表・カリキュラムマネジメントには、ICT機器の活用が有効だと感じますか？

	そう思う	ややそう思う	思わない	やや思わない	思わない
回答数	4	10	0	0	0
%	28.6	71.4	0.0	0.0	0.0
前年度			0.0		
%	100.0				0.0

成果

- 身に付けさせたい資質能力を明確にし、職員間で共有することで系統立てて指導することができた。
- 放課後の時間に余裕ができることで、児童理解のための情報交換ができたり、時間をかけて教材研究を進めることができた。



課題

- 日課表の組み方に改善の余地がある。（朝の時間に余裕がない。）
- ICT機器の活用の仕方に個人差がある。

取り組み前の勤務状況と取り組み後の勤務状況を比べると・・・
左は令和元年度、右は令和4年度の年間月別時間外勤務の量をグラフ化したものです。左は全体的に上寄り、まばらです。職員の仕事量がまちまちで、かつ効率化されていないことがわかります。右は全体的に下寄り、それぞれの仕事量も均一になってきたことがわかります。
伊勢山小では時間外勤務80時間越えの人数は0人になり、年間の時間外勤務70時間越えの回数が22回だったものが現在では年間4回まで減りました。

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

川井小学校

【持続可能な学校】

大前提として、職員の裁量ある時間を生み出す

昨年度まで

- 下校時刻を早めて時間を生み出す。
・40分授業AM5時間制、下校時刻14:35
- 業務のアウトソーシングで時間を生み出す。
・教室ワックスがけ、プール清掃、フィルター清掃等、福祉作業所へ委託
- 研究する教科を絞って時間を生み出す。
・全学年教科分担制導入
- 専科を充実させ時間を生み出す。
・チーム学年経営、29時間非常勤、空き時間確保
- 会議の精選で時間を生み出す。
・グループウェアでの共有、打ち合わせ廃止

今年度新たに

- 留守電運用時間繰り上げで時間を生み出す。
・開始時刻18:00⇒17:00 業務メールアドレスで緊急連絡ルートを確認
- 欠席連絡デジタル化で時間を生み出す。
・Googleフォームで欠席連絡 GIGA端末で担任がいつでも確認
- 会議開始時間15:30統一で時間を生み出す。
・終了時刻は16:15 or 30あとは裁量時間
- 手紙の電子化で時間を生み出す。
・紙面削減→学習時間の確保 配付忘れ回避
- 会議の精選で時間を生み出す。
・検討、確認にわけ会議時間、回数の削減

そしてさらに…

- 「働く時間選択制」で時間を生み出す。
・半数をA勤(8:00~16:30)にして、16:30以降に業務を入れない!

【質の高い学び】

生み出された時間を質の高い学びに結び付ける

- 児童の集中力の持続
・40分でテンポ感のある学習展開
- 教師も子どもも疲れの出る前にしっかり学習
・体力のあるAMに5時間学習
- 研究が深まり授業力が高まる。
・教科を絞ることで研究が深まる。
・同じ授業を複数クラスで行い授業力アップ
- 専門性の高い授業で興味関心が高まる。
・専科の充実により児童の好奇心を満たす。
・専科の充実により授業を見合う時間が増加
- 生み出された時間の有効活用
・裁量ある時間を教材研究に投入
・積極的な外部連携企画の導入、外部講師招請機会の増加
- ICT活用による指導の効率化、明示的な指導
・表現運動を動画で予習 ・アットホームスタディの活用
・思考ツールの活用

- 効果は質の高い学びにとどまらない。
・学年の全クラスで授業することで児童理解が深まる。
・寄り添った指導を実現することによる、落ち着いた学級・学年経営
・放課後の裁量ある時間に児童・保護者の情報共有、保護者連絡、家庭との連携、面談時間の確保
・ケース会議等、臨時会議の時間確保
・休憩休息時間確保
・新組織運用で学校運営参画意識の向上、自己有用感の高まり

【成果や課題】

職員間の情報共有や日常的な相談は以前に比べて増えましたか？ (肯定56.0% 以前と変わらない36.0%)
 柔軟な日課表・カリキュラムマネジメントのもと、児童生徒の集中力に高まりを感じますか？ (肯定52.0% 以前と変わらない36.0%)
 柔軟な日課表・カリキュラムマネジメントのもと、児童生徒はいきいきと活動していますか？ (肯定60.0% 以前と変わらない32.0%)
 柔軟な日課表・カリキュラムマネジメントには、ICT機器の活用が有効だと感じますか？ (肯定72.0% 以前と変わらない24.0%)

さらにキャリアの若い人材が増えてきたため、ゆとりや余裕を実感しにくくなっている状況も見られる。定時出勤日を指定するなど工夫しているが、エビデンスに結び付きにくい。「働く時間選択制」導入により16:30以降に業務を入れない取組が、今後の鍵となる。

勤務時間内にご自身の裁量のある時間は増えましたか？ (肯定60.0%)
 余裕を持って業務に取り組むことはできていますか？ (肯定48.0%)
 帰宅時刻は以前に比べて早まりましたか？ (肯定56.0%)

「持続可能な学校」に向けた取組を通して、「質の高い学び」に確実に近づいていることが実感されている。またICT活用が、親和性が高いと感じられているようだ。コミュニケーションも増えている。

反面、取組が3年目となり、本校しか知らない職員の割合も増加していることから、「肯定」が減少し、「以前と変わらない」と回答する割合が増えている。

「質の高い学び」と「持続可能な学校」 の同時実現に向けて

川上北小学校

【質の高い学び】

個別最適な学びと協動的な学びの実現において

- ◇学習タイム20分と40分授業を合わせた60分授業の活用
 - ・60分でじっくり考え創り上げる高学年の活動に効果的
 - ・読書会での思考の連続性
- ◇学習タイムの活用法・ワークシート活用や導入、まとめの工夫
 - ・学習タイムで練習問題や個別指導の充実
- ◇全職員が校内授業研究の実施
 - ・低中高のブロックテーマによる系統性や授業視点の明確化

【持続可能な学校】

午前5時間制40分授業導入の取組

- ◇組織改革⇒チーム学年経営・教科分担制の充実
- ◇職員会議資料、週案、学年研記録等をロイロで共有
- ◇就労支援施設に軽作業の依頼⇒教室のゴミの回収、分別等
- ◇学年便り精選⇒行事予定を学校便りに一本化
- ◇職員のつぶやき⇒職員が思っていることをすぐに吸い上げることができるようシステム化、働き方改革に繋ぐ
- ◇校内で、「持続可能な学校づくりワーキング」を実施

【成果や課題】

【成果】

- ◇質の高い学び
 - ・授業研(60分授業)で、個に応じた学びの場が見られた。柔軟な枠組の実践(授業研より)
 - ・話し合う時間の確保が取れ、話し合い活動の充実が見られた。(授業研より)
 - ・教科担任制のおかげで、指導する内容について教材研究にじっくり取り組み、改善し続けることができるようになった。(アンケートより)
 - ・40分の中で、身につける力を明確すること、これまでより更に意識して教材研究を行うようになった。(アンケートより)
- ◇持続可能な学校
 - ・チーム学年経営実施⇒一人一人の空き時間増。事務作業の時間の確保・教材研究の時間の確保に繋がった。(アンケートより87.5%)
 - ・ロイロを使った業務改善やICT機器を使う意識の高まりが見られた。(87.5%アンケートより)
 - ・就労支援施設に依頼・ワーキング実施等で、より一層の意識改革、実態把握、業務改善のアイデア、課題の共有に繋がった。⇒実態把握、課題の共有等で以前より帰宅時間が早くなったと回答(50%アンケートより、平均勤務時間が6時間減少)

【課題】

- ◇質の高い学びに向けた授業改善、カリキュラムマネジメント
 - ・授業研究の継続、学習タイムとの組み合わせの実践の蓄積
 - ・40分授業で展開するための工夫
 - ・学力差による児童の負担感がある。支援の在り方を模索する必要がある(アンケートより)
 - ・技能教科のタイムマネジメント(アンケートより)
 - ・人材育成(メンターチーム、ミドルリーダー等の研修)
- ◇持続可能な学校
 - ・会議の精選や会議の質の向上
 - ・限られた時間(勤務時間内)で行うためには、教職員が会議の工夫(提案の仕方等)をしていく必要がある。(アンケートより)
 - ・教科分担制のため移動教室が多くなり、児童管理の難しさ(アンケートより)
 - ・教材の共有による教材研究の効率化(アンケートより)
 - ・学校便り、学年便りの精選

「質の高い学び」と「持続可能な学校」 の同時実現に向けて



さわの里
小学校

【持続可能な学校】

遅くとも14:30下校

行事予定に【ノー会議】
【出席簿処理日】の確保

学校づくりワーキング・さわcafé

対話を通して「さわ小の強みや課題を共有すること」「組織として目標に向かうこと」「思いを共有すること」「職員の今を伝え合うこと」などを目指して実施しています。今年度は、異動者が多かったことで、新たな視点でのさわ小の見取や新たなアイデアの交換がありました。また、学校運営協議会委員の方にも出席、発言いただくことで、「教育課程を開く」ことにもつながりました。

ボランティア・保護者の協力

地域学校協働本部では、ボランティア募集チラシを子どもと協働して作成しています。運動会前日準備でも保護者協力を得ています。

【質の高い学び】

午前5時間×40分

8時25分より1校時開始。集中力の高い午前中に、5コマを実施することによって、思考力を働かせることによる学力の向上を目指しています。午後は、50分授業としています。

授業改善タイム

ICTの活用

今年度は、「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けて、生活科、総合的な学習の時間についての学び合いを充実させています。校内重点研究とも密接にリンクさせています。

1年生の段階から自分のめあてに向かってiPadを活用して学習を進める姿があります。

また、紙ベースと併用しながらの学習の振り返りの蓄積によって、自己の学びの変容を捉えたり、仲間の考えから学んだりしています。

【成果や課題】

・職員間の情報共有や日常的な相談が以前より増えたと感じている教職員が多い。支え合いの風土、経験の浅い教職員の心身を大切にしようとする風土がさらに醸成されている。組織的な対応がスピード感を持って行える。

・時間外勤務の減少がある。

R4 4月 50.52時間➡ R5 4月 48.26時間(-2.26)

R4 6月 52.57時間➡ R5 6月 47.43時間(-5.54)

R4 9月 48.46時間➡ R5 9月 41.50時間(-6.56)

・授業改善、子ども主体の活動により、以前よりも、子どもの自己肯定感が上がってきている。

・授業の準備がしっかりとできていると、授業の内容が濃くなるという実感が得られた。

・漢字の学習やスキルタイム、テストの実施など、そもそも45分の活動時間が必要ないものについては、「切替」ながら進めることができ、「メリハリ」がある。

・体育科では増えたコマ数を活用した「慣れの運動」の積み重ねで、習熟が図られ技能が身に付いている姿がある。

・40分授業の学習の区切りが難しく、前時の続きから学習をしたり、振り返りの時間がとれなかったりすることがある。

・休み時間を増やしてほしいという声に対応できていない。

・子ども自身の放課後の時間の使い方に課題がある。

・会議の精選や、小規模校の課題である一人ひとりの業務量過多を改善したい。→やるべきことと手放せること

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

獅子ヶ谷小学校

【質の高い学び】

- **40分授業と20分モジュールの活用**
午前40分授業による集中力の向上
20分モジュールを用いた基礎学力の定着
- **ICTの活用（アナログとデジタルの併用）**



情報共有・意見交流



思考操作

- **教材の共有化**
作成した教材・ワークシートをPC・ロイロノートの共有フォルダに保存
⇒ 授業実践の有効活用（児童の学力向上）
- ⇒ 授業準備の効率化（教職員の労働時間削減）

【持続可能な学校】

- **午前5時間40分授業、午後1時間+20分モジュール**
⇒ 高学年 14時55分下校、低学年 14時15分下校
- **教職員の出勤時刻（8時00分～16時30分）**
⇒ 児童の登校前に職員が出勤
- **常に休憩時間45分を確保**
⇒ 職員会議の日（14時35分下校）
授業研究会の日（13時55分下校）
- **会議の精選**
⇒ 定例会議は月1回の教務会・職員会議のみ
- **ミライムの活用**
⇒ 打合せは週1回10分程
- **ノー残業デー（毎週水曜日）**
- **働き方研修**
⇒ 働き方改革の目的・現状・目標値を共有
- **働き方改革の進捗・成果を共有**

制度改革

×

意識改革

【成果や課題】

裁量ある時間が増えたか。



6月の残業時間



＜成果＞

教職員・児童の負担軽減、学校・学級の安定
放課後の裁量ある時間の増加、コミュニケーションの増加

＜課題＞

教職員を育てながら、質の高い学びと持続可能な学校の両立
（初任校者が教諭全体の40%）

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

つづきの丘小学校

【質の高い学び】



全国学力状況調査

○国語、算数ともに、**全国よりも平均正答率が高い。**

	国語	算数
つづきの丘	7.3	7.2
全国との差	+0.6	+1.0
神奈川県	6.6	6.3
全国	6.7	6.2

食育推進校の取組

- ランチルームの設置
 - 学年の食育の取組の**明確化**
- 児童、保護者、地域などで連携し、**既存の組織**で進めている。

一人一台端末持ち帰り試行校

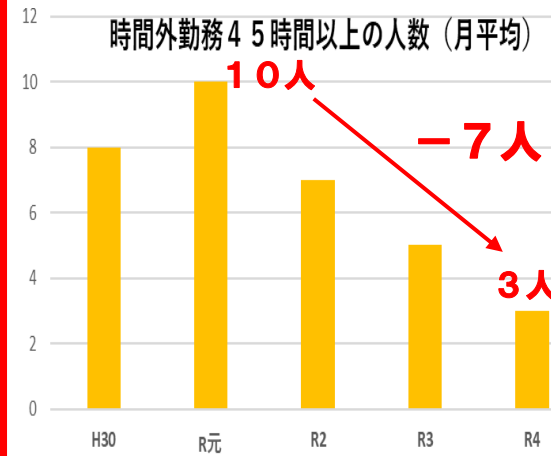
- 学校と家庭の**学びの連続性**
- デジタルドリル**の活用

算数少人数の導入

- 習熟度別**で、自分でクラスを選べる。

●午後は、月・火・木**60分授業**、水・金**40分授業**。（1・2年生は全日**30分授業**）**ロングタイム**や**ショートタイム**を設けた。

【持続可能な学校】



時間外勤務減少

- 取組を始めてから時間外勤務**4.5時間**（月平均）を超えた職員が**減少**した。
- 昨年度は月平均**5.4時間**以上**0人**。
- 今年度9月まで月平均**4.5時間**以上**0人**。

チーム学年経営・一部教科分担制

- チームネによる週案の作成。
- 担任の交換授業、専科、少人数など活用し、**高学年担任**の持ち時間**1.8コマ**。

軽作業事務所の活用

- 清掃の時間に**手の届かない場所**。

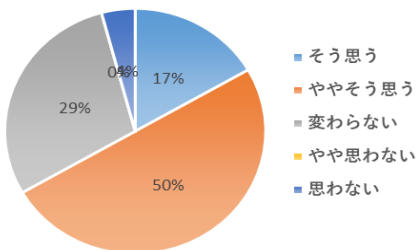
予備時数・カリの見直し

- 予備時数の**削減**、**柔軟なカリキュラム**。

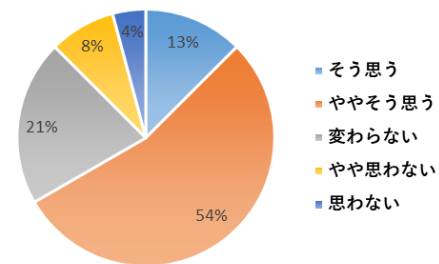
- 会議を**14時45分**から設定（水・金）。**下見も勤務時間内**で。
- 1・2年生は**火曜日**は**午前授業**。
- 16時45分**に**チャイム**。

【成果や課題】

勤務時間内にご自身の裁量のある時間は増えましたか？



柔軟な日課表・カリキュラムマネジメントのもと児童生徒はいきいきと活動していますか？



「裁量のある時間が**増えたか**」に肯定的な意見が**67%**
 「児童は**いきいきと活動しているか**」に肯定的な意見が**67%**

教職員の声

- 裁量のある時間が生まれ、教材研究や指導案検討ができた。教職員の心のゆとりが生まれ、職員室での教職員同士の会話が増え、余裕を持って子どもたちと向き合うことができた。
- 時間的なゆとりができて、まだまだ忙しい。ICTの活用は効果的だが、教職員の力量によって差が出てしまう。
- 会議等が少なくなった分、情報が抜けないように、教職員間の情報共有を意識して行う必要がある。

① 日課表の変更による裁量ある時間の確保

・午前5コマで下校 15:00 ・会議開始 30分早め、勤務時間内に終了

② 会議のタイムマネジメント

・職員会議は検討事項のみ ・必要所要時間を明記

③ 行事や児童活動の見直し

・全校遠足→たてわり遠足、運動会午前開催継続 ・内容から時数の見直し

④ 組織の改編

・校務分掌の明確化：落ちや重なりを無くし定例会議に位置付け

⑤ 週1日会議のない日の設定

⑥ あゆみ見直し

・出席欄、出席番号削除

⑦ 一部教科分担制

・3年生～6年生で実施

① 教職員間のコミュニケーション

・教材研究 ・児童理解 ・事案対応の検討、確認 ・学年活動
・相談、雑談など職場の風土づくり

② 教育効果という視点での取組の反省

・各取組後に子どもの姿から取組の振り返りを行い、削減等の改善

③ ICTの効果的な活用

・導入、思考、振り返りなど各場面での効果的な活用の情報共有
・GIGA通信の活用、重点研究で位置づけ

④ 授業改善

・学習指導要領の資質能力を育成する授業づくりのためのテーマ設定と視点
で共同研究。共有した改善のポイントを活かした学年での授業づくりに還元

⑤ 特別支援教育の充実

・特別支援教室担当のコマ数の増加

【成果や課題・教職員の声】

R5アンケートより

【成果】

【教職員】

- ・教師同士が、子どもの姿や授業のことを話し合う時間が増えたことで、児童理解や授業改善につながり、結果、児童にとってプラスに働いている。
- ・40分の時間を意識したことで、必要な部分と省いてもいい部分を見直す視点が得られた。
- ・2時間をひとつのパッケージにするなど、柔軟に単元デザインを描こうとする視点が得られた。
- ・帰宅時間が早くなることで生活に余裕が出て、リフレッシュ、疲労感の軽減につながっている。

【子ども】

- ・下校が早く、放課後をゆったり使えるので嬉しそう。思っていたよりも子供は柔軟で、中休み前の3時間も、集中して授業に取り組んでいる。
- ・授業への集中力が向上した。放課後に余裕を持った多様な過ごし方ができている。 ・トラブルが減った。

【課題】

【教職員】 ・学習タイムと6時間目の有効活用。 ・個人裁量の時間が増えたが、「質の高い学び」のための授業準備の時間が足りない。

・「持続可能」とは一体何なのかを教職員同士がもっと話し合わなければいけない段階。

【子ども】 ・振り返りの時間の確保 ・じっくり考えたい、一つひとつじっくり時間をかけて取り組む児童にとっては、時間が足りない。

「質の高い学び」と「持続可能な学校」 の同時実現に向けて

根岸小学校

【質の高い学び】

★午前中に集中して学習

- ・日課表の工夫により、10分間の朝学習と午前5コマ40分授業を実施。

★週に2回の学年研（1回は授業改善タイム）

- ・日課表の工夫により生み出した学校裁量の時間を有効活用し、週に2回の学年研を設定し、学年で教材研究に取り組み、評価規準を確認したり、教材を共有したりして授業改善につなげる。

★全学年に専科を配置し、低学年は教科交換、中・高学年は一部教科分担制。

- ・担当教科を絞って教材研究を進めることで、授業改善につなげる。
- ・児童理解、支援の向上

★ICTの活用

- ・40分授業の中で子どもたちに身に付けさせたい力を明確にし、ロイロノート等のICTを教科の特性に合わせて活用。

【持続可能な学校】

★ペーパーレス（データ配信）化

- ・お便り（学校・学年・給食・保健）や説明会動画（学校・入学・宿泊体験学習）保護者アンケート、承諾書を配信。ミライム、Googleドライブ、フォームの活用

★リモート活用

- ・朝会、委員会集会、校内子ども会議

★業務委託

- ・カーテン洗濯、ワックスがけ、プール清掃

★組織的児童理解、児童指導

- ・月2回の児童理解打ち合わせ、学年ノートにより、早期発見、早期組織対応、予防、共有

★留守番電話（17:30）ノー会議、定時退勤推進日設定

★行事・会議の精選

- ・運動会午前開催 ・企画会隔月開催、教務会とのすみわけ

★ねぎラボ（共有資料ファイリング）

- ・個人の資料抱え込みを減らし、分掌ごとのファイルを一括管理。

【成果や課題】

<教職員の声より>

- ・裁量の時間が増え、余裕をもって業務に取り組めるようになったと7割が回答。教材研究の時間が増えた、児童理解や指導の時間が確保できるとの回答が多かった。また、児童の集中力が高まったと感じるとの回答もある。
- ・一方、実技教科の時間の確保、慌ただしさや業務の精選には課題が残るとの回答もある。

7 勤務時間内にご自身の裁量のある時間は増えましたか？					
	そう思う	ややそう思う	以前と変わらない	やや思わない	思わない
回答数	5	12	6	1	0
%	20.8	50	4.166666667	0	0
	肯定的		25.0	否定的	
%	70.8			4.166666667	
11 余裕を持って業務に取り組むことはできていますか？					
	そう思う	ややそう思う	以前と変わらない	やや思わない	思わない
回答数	1	16	5	2	0
%	4.2	66.7	8.3	8.3	0
	肯定的		12.5	否定的	
%	70.8			8.3	

<児童の声より>

- ・給食後の午後が6時間目だけなので集中できる。
- ・放課後の時間が増えてうれしい。
- ・授業の時間は45分でも40分でも楽しいときは楽しいから関係ない。
- ・朝があわただしい。・1日の教科数が多い。

「質の高い学び」と「持続可能な学校」 の同時実現に向けて

荏田南小学校

【質の高い学び】

- 全学年 教科担任制の導入
 - ※同じ授業を複数回 教材研究の深まり
- コース別算数少人数（習熟度別）の実施
 - ※児童の力に合わせた焦点化した授業構成
- ICT機器の有効活用した「わかる授業」の実現
 - ・大型提示装置（全教室設置）による情報共有
→視覚でわかる資料提示から協働的な学びへ
 - ・iPadの効果的な活用
→子どもが学びを進める際のお助けツール



【持続可能な学校】

- 午前5時間授業（45分）
 - ※学年・担任によるフレキシブルな時間運用
- スキルタイム（15分：基礎・基本の充実）の導入
- 放課後の教職員の時間確保＝児童の余暇時間の確保
 - ※1・2年 午前5時間 13：25分下校
 - ※3年火曜のみ6時間 4～6年火・金のみ6時間
- 高学年による低学年の教室掃除
 - ※1・2年は掃除なし
 - ※5・6年が1・2年の教室掃除
- 留守番電話の自動設定（長期休暇含む）
- 計画年休の導入
- ICTを活用した業務の効率化 ○積極的な外部委託



【成果や課題】

- 教職員の時間外勤務の減少へ ➡「15時から会議が始まるので会議のあとでも事務作業など自分の時間が確保できる」
- 高学年と低学年の交流深まり、掃除時間の充実➡「1年生から6年生へ「掃除ありがとう」のメッセージ」やる気アップ
- コース別算数の導入により学力UP➡全国学力学習状況調査 算数 全国平均、神奈川県平均を上回る
- わかる授業への改善➡「ICTを活用することで自身の授業について見直すきっかけになった」
- 子どもの児童間トラブルの減少➡放課後の時間が増え、自由時間があることで子どもの心にゆとりができたと感じる
 - 午前中があわただしく時間におわれる感覚がある➡「下校時間まで何かとあわただしい」
 - 教職員の働き方改革への地域や保護者の理解➡午前5時間授業実施に向けて昨年度、学校説明会を実施

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

【質の高い学び】

- 総時間数を確保できる。
- 授業者が、1コマ40分を意識することで、これまで以上に本時の問いを明確にし、授業内容を精選しながら授業できる。
- 授業内容や教科によって、40分・50分を選択できる。
- 10分間を習熟時間にとるなどの工夫が可能

【持続可能な学校】

- 日課表を工夫することで、児童の下校時刻が早くなり、教職員の休憩休息や会議等の時間を確保できる。
- 職員の残業時間が減少。80時間超はほぼ0となっている。
- 登校時刻を8:15分に設定し、職員の勤務時刻とそろえられたことで安全管理ができる。
- 40分・50分の枠を作ったことで近隣校と夏休みの時期をそろえられた。

「柔軟に1コマの授業時間を変更」

R5年度

令和5年度 釜利谷南小学校 日課表

月	火	水	木	金
8:15	始業式	始業式	始業式	始業式
8:30	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会
8:40	1校時 (50分)	1校時 (50分)	1校時 (50分)	1校時 (50分)
8:50	2校時 (40分)	2校時 (40分)	2校時 (40分)	2校時 (40分)
9:00	3校時 (40分)	3校時 (40分)	3校時 (40分)	3校時 (40分)
9:10	4校時 (40分)	4校時 (40分)	4校時 (40分)	4校時 (40分)
9:20	5校時 (50分)	5校時 (50分)	5校時 (50分)	5校時 (50分)
9:30	6校時 (40分)	6校時 (40分)	6校時 (40分)	6校時 (40分)
9:40	7校時 (40分)	7校時 (40分)	7校時 (40分)	7校時 (40分)
9:50	8校時 (40分)	8校時 (40分)	8校時 (40分)	8校時 (40分)
10:00	9校時 (40分)	9校時 (40分)	9校時 (40分)	9校時 (40分)
10:10	10校時 (40分)	10校時 (40分)	10校時 (40分)	10校時 (40分)
10:20	11校時 (40分)	11校時 (40分)	11校時 (40分)	11校時 (40分)
10:30	12校時 (40分)	12校時 (40分)	12校時 (40分)	12校時 (40分)
10:40	13校時 (40分)	13校時 (40分)	13校時 (40分)	13校時 (40分)
10:50	14校時 (40分)	14校時 (40分)	14校時 (40分)	14校時 (40分)
11:00	15校時 (40分)	15校時 (40分)	15校時 (40分)	15校時 (40分)
11:10	16校時 (40分)	16校時 (40分)	16校時 (40分)	16校時 (40分)
11:20	17校時 (40分)	17校時 (40分)	17校時 (40分)	17校時 (40分)
11:30	18校時 (40分)	18校時 (40分)	18校時 (40分)	18校時 (40分)
11:40	19校時 (40分)	19校時 (40分)	19校時 (40分)	19校時 (40分)
11:50	20校時 (40分)	20校時 (40分)	20校時 (40分)	20校時 (40分)
12:00	21校時 (40分)	21校時 (40分)	21校時 (40分)	21校時 (40分)
12:10	22校時 (40分)	22校時 (40分)	22校時 (40分)	22校時 (40分)
12:20	23校時 (40分)	23校時 (40分)	23校時 (40分)	23校時 (40分)
12:30	24校時 (40分)	24校時 (40分)	24校時 (40分)	24校時 (40分)
12:40	25校時 (40分)	25校時 (40分)	25校時 (40分)	25校時 (40分)
12:50	26校時 (40分)	26校時 (40分)	26校時 (40分)	26校時 (40分)
13:00	27校時 (40分)	27校時 (40分)	27校時 (40分)	27校時 (40分)
13:10	28校時 (40分)	28校時 (40分)	28校時 (40分)	28校時 (40分)
13:20	29校時 (40分)	29校時 (40分)	29校時 (40分)	29校時 (40分)
13:30	30校時 (40分)	30校時 (40分)	30校時 (40分)	30校時 (40分)
13:40	31校時 (40分)	31校時 (40分)	31校時 (40分)	31校時 (40分)
13:50	32校時 (40分)	32校時 (40分)	32校時 (40分)	32校時 (40分)
14:00	33校時 (40分)	33校時 (40分)	33校時 (40分)	33校時 (40分)
14:10	34校時 (40分)	34校時 (40分)	34校時 (40分)	34校時 (40分)
14:20	35校時 (40分)	35校時 (40分)	35校時 (40分)	35校時 (40分)
14:30	36校時 (40分)	36校時 (40分)	36校時 (40分)	36校時 (40分)
14:40	37校時 (40分)	37校時 (40分)	37校時 (40分)	37校時 (40分)
14:50	38校時 (40分)	38校時 (40分)	38校時 (40分)	38校時 (40分)
15:00	39校時 (40分)	39校時 (40分)	39校時 (40分)	39校時 (40分)
15:10	40校時 (40分)	40校時 (40分)	40校時 (40分)	40校時 (40分)
15:20	41校時 (40分)	41校時 (40分)	41校時 (40分)	41校時 (40分)
15:30	42校時 (40分)	42校時 (40分)	42校時 (40分)	42校時 (40分)
15:40	43校時 (40分)	43校時 (40分)	43校時 (40分)	43校時 (40分)
15:50	44校時 (40分)	44校時 (40分)	44校時 (40分)	44校時 (40分)
16:00	45校時 (40分)	45校時 (40分)	45校時 (40分)	45校時 (40分)

朝10分間を習熟の時間として設定。内容によって50分授業に変更可能

5時間目を50分で統一

クラブ・委員会の日は5校時40分

下校時刻を統一

【課題・職員の声】

- ・1コマが45分になっているのであれば、45分授業のままの方が持続可能になるのでは。
- ・現行の場合、時数計算に大変な労力がかかっている。
- ・40分を1単位時間として計上できるようになると、教員の負担が減り、働き方改革にもつながる。
- ・技能教科の活動時間充実を図ることが難しい。(1, 5校時は50分でとれるからよい。)
- ・低学年は、1単位時間を細切れにすることも多いため、これまでの様子と変化はない。

「質の高い学び」と「持続可能な学校」 の同時実現に向けて

菅田の丘小学校

【質の高い学び】

- ◇育てたい子どもの姿、児童のよさ・課題の共有
 - 全職員での花笑みワーク
 - 育てたい子どもの具体的な姿の明確化・実現に向けた手立ての検討
 - 実現状況の共有、次の手立て・取組の検討
- ◇本物にふれる機会を積極的に設定
 - 出前授業・近隣施設との交流、活用 等
 - 多様な経験、自分の生き方を考える機会、職員の負担軽減
- ◇独自教科策定（併設型小中学校としての取組）
 - 「自分づくり科」令和7年度実施に向けて
 - 身近なひとやまちとの関わりを大切にした学習
 - 教科横断的な視点を大切にした学習
- ◇ICT機器の一層の活用
 - 定期的なミニ研修会の実施
 - 職員のニーズこたえるICTコーディネーターの積極的な行動

【持続可能な学校】

- ◇花笑みワーク（学校づくりワーキング）の実施
 - 生み出した時間を使い、全職員の参加で実施
 - 全教職員が同じ考え・視点で子どもに関わる
 - ミドルリーダーの資質向上
- ◇校舎移転に向けた、職員の物理的・心理的負担軽減
 - 作業時間保障＝放課後の裁量ある時間の確保
 - 時間割の工夫
 - 軽作業委託事業（エアコン清掃、流し清掃等）
 - 地域コーディネーターとの連携（ボランティア募集・調整等）
 - 教育委員会関係課室との綿密な連携・調整
 - 学校の負担軽減、無理のない学校運営を意識

【成果や課題】

□ストレスチェックの値が改善

健康リスク	R4	R5
総合健康	120	94
仕事の量的負担	116	105
職場のサポート	104	90

■取組の質の向上

- 「会議の時間が長い」という職員の声
 - 短時間で効率よく進めるための具体的手立ての提案と実践意識の向上
- 地域の教育力の更なる活用
 - 地域コーディネーターや地域ケアプラザ等の活用、軽作業委託事業を職員の必要感・アイデアを生かし、より充実させる

「質の高い学び」と「持続可能な学校」 の同時実現に向けて

高舟台小学校

【質の高い学び】

- 教科分担任
 - ・教材研究の焦点化や実践の検証による授業改善、評価の一貫性、さらには学年担任として授業を通しての児童理解などをねらう。
 - ・今年度は3年生以上の社会・理科を教科分担任で行っている。また、時数調整において国語の小単元も絡めるなども工夫する。さらには、1・2年の音楽・体育など、学年内で教科分担任について、単元や時期などで実施を予定している。
- チーム学年経営
 - ・月に2回程度、ブロックによる児童指導の情報交換や教材研究をする。
 - ・各ブロックに級外1名が所属し、また各ブロックに1名教務部の主幹教諭がいる。
 - ・学年内だけでなく、ブロック内でのたてやななめの人材育成を意識的に行う。
 - ・児童指導では、発達段階が近い学年同士で、積極的に情報交換することで、同フロアや同校舎での気づきや関わりを生かす。
 - ・行事運営も、これまでと同様に運動会や水泳、体力テストなどブロックで活動する際はもちろんのこと、活動が同じでなくても、お互いがよき相談相手になる。
 - ・学年の打合せ内容が多く、どうしてもブロック研ができないことはある。ブロック研の時間の確保や何をするのかなどは今後も課題。

【持続可能な学校】

- 放課後の時間の確保
 - ・日課表の工夫、完全下校の徹底、休憩休息時間の確保、打合せ回数削減による職員の放課後時間の確保。
(これまでの30分から60分に拡大)
 - ・次の日の準備をしっかりと行い、子どもがいる時間は子どもとゆっくり向き合えるようにすることで、無用なトラブルを避ける。
また、保護者対応もじっくりと行うゆとりをもつ。
- 余剰時間の見直しをする
 - ・昨年度よりもさらなる余剰時間の削減をする。
午前授業や、5時間授業の日をできるだけとれるようにする。
- 誰もが働きやすい学校
 - ・時短職員や異動してきた職員も混乱なく、落ち着いて仕事ができる環境づくりに努める。

【成果や課題】

- ・新しい日課表に慣れ親しむ1年として取り組んでいる。予想していた通り、朝の時間と掃除の時間が忙しいこともあるが、子どもたちは意外と混乱もなく日々の生活を送れている。
- ・児童が学校で過ごす時間を大切にしたいという職員の思いは、日課表が変わっても継続できている。
- ・会議の数についても、教育活動を維持する上では現状が妥当ではないかという声が聞かれる。
- ・会議資料を事前にタブレットで共有するなど、さらなる会議の時短などができそうである。
- ・子どもファーストを忘れることなく、持続可能な学校を推進しながら質の高い学びを目指すという意識をさらに職員に定着させていくことで、よりよい改善策も出てくると考えられる。

「質の高い学び」と「持続可能な学校」の同時実現に向けて

茅ヶ崎東小学校

【質の高い学び】

1、職員会議で実践シェアタイム

- ・会議の最後10分間で担当学年が現在取り組んでいる学習内容を発表する。
- ・ICT活用を中心に行っている。

2、チガカフェの開催

- ・年3回 30分実施
- ・職員の親睦と交流の場として実施
- ・メンター研を隔月に変更



【持続可能な学校】

1、余剰時数の削除

- ・余剰時数各学年（10月現在）
- 1年 → 7時間 2年 → 6時間
- 3・4年 → 5時間 5・6年 → 0時間

2、下校時刻を早める

- ・昨年度より15分下校時刻を早める。
- ・1年生 水木4時間
- 2年生 水4時間
- 3～5年 火5時間
- ・MY FRIDAY（月1 全校4時間下校+会議なし日）

【成果や課題】

	そう思う	ややそう思う	以前と変わらない	やや思わない	思わない
回答数	6	17	4	1	0
%	21.4	60.71428571	14.3	3.571428571	0
	肯定的			否定的	
%	82.1			3.571428571	

	そう思う	ややそう思う	以前と変わらない	やや思わない	思わない
回答数	7	15	6	0	0
%	25.0	53.6	10.7	0.0	0
	肯定的			否定的	
%	78.6			0.0	

教師にとって良かった点（職員の声）

- ・自分の学年以外の情報が入り、学びが広がりました。
- ・教材研究や授業研究の時間の確保ができるようになった
- ・働き方への意識が改善され、働き方に変化がみられた。
- ・気持ちの余裕が生まれた。
- ・教職員一人一人が協力して業務を進めていこうとする力が働き結果的に全員の負担が減っている気がします。
- ・My Fridayのような教材研究の時間があることです。

児童にとって課題となった点（職員の声）

- ・カリマネのさらなる調整
- ・集中が持続することが難しい児童への対応

時間外在校等時間（職員平均時間）

4月	5月	6月	7月	8月	9月
31:07:30	33:45:54	33:44:18	20:23:46	6:28:30	30:28:17

「質の高い学び」と「持続可能な学校」 の同時実現に向けて

羽沢小学校

【質の高い学び】

- 生活科、総合的な学習を軸に、授業の中でESDを意識した学習を展開し、重点的に研究を進めている。
- 「にこにこ羽沢の会」を通年通して実施し、全職員でこれからの羽沢の子どもたちや学校のあり方を考え、ブレなく同じ目標で子どもたちを教育・支援にあたる。
- 安心して学習に臨めるようにサポート体制を強化（パワーアップルームの拡大、学びの学習ボランティアの増員、少人数教室の実施）など。
- 菅田中ブロック独自教科「自分づくり科」（R7年度より実施）でキャリア教育や社会情動的コンピテンシーの能力の育成がはかれるよう、能力系統表を作成し、研究を進めていく。（R6年度より）

【持続可能な学校】

- 日課表の工夫（R3年度より実施）
 - ・1校時8：30～9：00の30分にし、2校時～5校時を45分授業で午前中に実施。午後は6校時のみ。
 - ・最終下校14：55
- 中高学年は教科担当制の充実。及び1, 2年生も専科（音楽、図工）を導入し、担任の空き時間を確保。
- 横浜市学校軽作業委託事業を導入し、学校内の換気扇掃除や教室や特別教室の掃除などを依頼。（R4年度より）
- 放課後学習広場（毎週水曜日、3年生から6年生）
 - ・地域の方による学習支援を放課後学校にて実施。（R4年度より）

【成果や課題】

- 本校の持続可能な学校の様々な取組は数年前から実施しているが、新しい取り組みに教職員が慣れてることで成果が得られるように思う。例えば令和6年度は異動した職員が半数近くいたため、4月から6月は残業時間が多い職員が目立ったが、8月から10月にかけては超過勤務の時間が学校全体で減り、7時以降残る職員がいない日も多く、成果を感じている。
- 社会情動的コンピテンシーの育成については児童アンケートを実施し、（1回目9月上旬、2回目12月下旬）子どもたちの意識の変化を探り、成果についての確認し、次年度の教育活動にいかしていきたい。
- ESDを意識した生活科、総合的な学習に力を入れて進めることにより、子どもたちの学習意欲の向上につながっていると感じている。それがエビデンスとしてのデータが得られるようにしっかり検証していきたい。